（別紙4）　　令和　元　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2295300129		
法人名	社会医療法人　駿甲会		
事業所名	グループホーム実夢青木		
所在地	静岡県藤枝市青木2丁目15－5		
自己評価作成日	令和2年3月25日	評価結果市町村受理日	令和2年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2295300129-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社第三者評価機構　静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1　柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和2年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

基本理念にある「その人がその人らしく」、認知症の人ではなくその人の自身を捉えた支援を大切にしています。
同法人内の医療機関と密に連携し健康の管理や定期、緊急受診に対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「クリスマス会があるから、是非いらしてください」との誘いから、子どもたちがサンタクロースの衣装を着てプレゼンターの役割を担ってくださった嬉しい日もあり、ご近所づきあいには温かな気持ちのつながりがあります。また独居で暮らしてきた頃、何かと気にかけて遠方の家族の代わりとなってくださっていたご近所さんは、本人の入所以来毎日来所して、他の利用者や職員とも親しい間柄となり、第二の家族として日々の団欒の中にいます。地域の皆さんに愛される事業所ですが、ケアサービスの研鑽も余念がなく、今年度は「縦手摺り（つっぱり棒）を居室に導入して褥瘡が消える」「温泉気分と喜ばれる、お茶風呂を始める」等の例があります。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者及び職員は全員で作った自設の理念を基に実践につなげる努力を行っている。	「その人がその人らしく地域で生活する～」との理念は毎月のスタッフ会議で振り返るとともに、管理者が何かにつけ引用して基軸にしています。またチャレンジシート（年2回の面談あり）における個人の目標設定にも関連づけています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し物に積極的に参加し交流に勤めている。祭事では必ず町内の屋台が施設の前でお囃子や踊りを披露してくれる。花火では施設敷地内にて一緒に見学、夏祭りにも参加した。災害避難場所を等施設駐車場としている。	町内会長の配慮から地域の防災訓練における集合場所が事業所の駐車場となったことから、さらに認知度が高まっていて、ごく普通の近所づきあいのほか、祭りにも出掛けて、地域に溶け込んだ活動となっています。	園児、子どもの来訪が増えていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を生かし地域の飲食店を利用、地域行事への参加を通し地域貢献に勤めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設でのサービスの取り組み状況の話し合いを行い、その時の意見、要望を取り入れサービス向上に生かしている。	「事業所のことを知ってもらいたい」との考えを以て、普段の様子がよくわかる『実夢タイムズ』を参加メンバーに配付しています。また必ず認知症のミニ知識のような話をするようにもしており、また参加している利用者数名にも、何がしかしゃべってもらうよう促しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には運営推進会議に必ず出席して頂き事業所の取り組み等の状況提供を行っている。市相談員にも来訪して頂き取り組んでいる。	藤枝市福祉政策課は運営推進会議に毎回足を運んでくださるほか、2ヶ月に1度来所くださる介護相談員が利用者の表情や何気なく話した内容を気づかい、管理者へ内容を届けています。また市が主催する感染症などの研修会にも参加ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が禁止の対象となる行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアの取り組みを行っている。定期委員会、研修をし知識の習得や対応を話し合っている。	『身体拘束・虐待防止委員会』の開催は3ヶ月に1度実施され、議事録からは現場の事例について密に協議されていることが確認できます。年2回の研修、新入社員の研修も実施され、1月の実施指導でも本件については指摘事項なしで終えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止関連法について冊子などで学び虐待の無いよう注意を払い防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活支援事業の必要性がある場合活用に心がけており、成年後見人制度を活用している利用者を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約また改定等の際は利用者、ご家族等に説明を行い理解、納得を頂いている。説明を受けたことの署名をもらっている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見、要望を管理者、職員は理解し運営に反映させ、毎月「実夢タイムズ」という事業所便りを発行している。	「以前の施設では（症状に課題があり）とてもじゃないが一時帰宅なんて無理だった…」と家族が零すケースでも、此処で状態が緩和されて、家族と職員で協力しあって自宅で過ごせるに至り、家族の信頼を集めています。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は懇親会などを開き職員の意見、提案を聞き反映させている。管理者は職員と話しやすい雰囲気を作り意見や提案を出しやすい環境作りをしている。	正社員９名、パートタイマー職員（常勤２名・非常勤３名）、派遣社員２名の構成ですが職員仲も良く、「会話が大切」として、管理者が主任や計画作成担当者の力を借りて、「皆で事業所を盛り立てよう」という気運が高まっていて、意見も随時出ています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各状況を把握し、向上心を持って働けるよう環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりの力量を把握し、研修の確保やトレーニングを行っている。職員個人で年間目標を作り自己研鑽に努めている。研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の他施設と交流を図り、毎月の研修、勉強会に参加しサービスの質向上の取り組みを行っている。研修に参加し他事業所との意見交換をしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人に寄添って困っていること、不安、要望に向かい合い、本人の安心できる関係づくりに努めている。認知症の人ではなく、その人の一部に認知症があるという事を意識しその人個人を捉える様にし関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、不安、要望に添った話し合いを行い、ご家族が安心、納得できる様な関係作りに努めている。随時日々の様子を伝えご家族の安心を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の時点で子細なアセスメントを行い、適切な支援、サービス利用の提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と暮らしを共にする者同士の関係を築くよう努力をし、おおむねその関係になっている。グループホームという事で一緒に生活している同士という考えのもと実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族を支えながら協力を仰ぎ、共に利用者を支えることを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人、場所が途切れないでいる利用者もいるが上手く関係の継続が出来ていない人もおり様々である。地域の催しに出向きそこで馴染みの人と触れ合う事も考え実施している。	友人が頻繁に訪れる人は温泉に一緒に出かけたときの話に花を咲かせたり、遠方の家族の代わりとなってくださっていたご近所さんは毎日来所して、他の利用者や職員とも親しい間柄となり、第二の家族として日々の団欒の中にいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し、孤立せずにより良い関わり合いが出来るよう注意し努めている。一人一人の性格を意識し職員が介入する事で関係作りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても関係の継続に努め必要とされれば相談にのっている。実際に入院や他施設への移動後も経過を伺ったり、実際に会いに出向いたりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにセンター方式を一部使い、本人の思いや希望、意向の把握に努め、本人本位に検討をしている。	C－1－2「私の姿と気持ちシート」を通じて職員が本人のイラストを描くことは、「見つめること」「理解すること」に実り、レクリエーションの場などで想いや意向を引き出して、スタッフ会議で共有しるに至っています（　必要に応じて『ケア記録』にも残している）。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族の協力を得てフェイスシート、アセスメントシートに適切な情報を多く入れ、職員の情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日常に一人一人の心身状態や日々の様子の変化に気を付け、把握に心がけている。その日に起こった事や些細な変化の情報共有に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画の作成に努めている。 ケアプラン作成時にはケア連絡表からの情報やケア会議で職員より意見を聞き取りモニタリングに反映している。	ニーズに対して長期目標・短期目標を検討し、1つの目標に4～6のサービス内容（2表）を用意しており、実現へ向け綿密に検討されていることが覗えます。スタッフ会議の中でケア会議（カンファレンス）がおこなわれ、多面的な目と耳で介護計画書が策定されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気付き等を支援経過表やケア連絡表に記入し、ケアプランの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに対応した柔軟なサービス提供に心がけ、多様化に向けて取り組めるように努力している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の利用を上手に活用できるように心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にした主治医との連携をとり、医療連携をとるなどより良い関係を築いて適切な医療を受けられている。	母体病院が協力医として、24時間連絡がつく安心感があり、全員が変更しており、職員（必要に応じて看護師）が通院介助することも家族には安心として歓迎されています。医療記録は『ケア記録』『申し送りノート』に残し、都度確認しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は毎日入居者のバイタルを測定して日々の変化、体調などの気づきに対し、看護師と相談し適切な看護や受診が行えている。24時間オンコールできる体制もある。病院に直接電話し主治医や病院看護師と情報共有、判断をする体制もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関は同法人内にもあり医療連携をしている。入院時を含め病院との連絡、情報の提供は密にとれており、良い関係を築けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対して、ご家族、ご本人と話をし施設で出来る事の説明を入所時に行っている。法人本部の病院関係者との関係づくりは出来ている。	「看取りはおこなわない」という方針を契約時に家族に説明し、合意形成しています。看取りはしないものの終末期においては丁寧なケアサービスに努め、また母体病院だけではなく法人内には介護老人保健施設もあることから、移設する場合は完了するまで伴走しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時に備えマニュアルを整備し迅速な対応ができるよう心掛けている。法人内で研修も開かれており参加し実践力を見に付ける取り組みをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	独自の非常用避難スロープを製作したうえで年2回の定期的な訓練を実施し、地域との協力体制を築いている。地区の避難場所等施設の駐車場に変更し情報の共有や訓練、災害時の対応に努めている。	防災業者の立ち合いを求め、消火器の取り扱いは無論のこと、通報において留意することをはじめ、詳細にわたって助言を得ています。備蓄は1週間前後あり、食事が手作りなことからローリングストックを含めると確実に7日を超える備えがあります。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応をしている。認知症の理解も必要である、その人らしさ、個人を捉えた対応をする様に努めている。	管理者が現場に入っていることから、気づきを速やかに該当職員に伝えたり、経験者が初心を忘れていると感じたときは声をかけており、利用者本位となるよう気遣いが継続され、リビングには穏やかな空気が流れています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の希望や思いを聞き取り、本人の意思に沿った支援を行っている。自分の思いを認知症の為声として表出する事が困難な人もいる。その人の姿、行動から察し気付くという事を職員は大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	効率ばかりにとらわれずその人のニーズを常に考え職員都合になってしまわないように日々その人らしい暮らしの支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人希望の服を選んでもらいその人らしいおしゃれの支援を行っている。洗顔など整容にも気遣い、身だしなみにも気を配るよう支援をしている。買い物に出かけ服や雑貨を選んで買ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの食事の好みを把握し、食事の楽しみの提供、配膳、食器洗い等、職員と共に行っていいる。	本部の管理栄養士が作成した献立をベースに利用者の意見や身近にある食材を考慮して職員が毎食のメニューを決めています。テーブルや食器拭きを通した生活リハビリが慣行され、どら焼きやフルーツポンチ、クッキーなどおやつレクも盛んです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分摂取量に気を配り、本人の摂取しやすい食事形態の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に各利用者に合わせた口腔ケアを行い口腔内の清潔を図っている。臥床時には入歯を洗浄剤に浸け清潔を保っている。市との研修座学実践口腔ケア技術向上事業にも参加した経験を活かし活用している。。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツ使用の無いように支援し、個人に合った排泄方法やトイレ誘導時間を設定している。 また、相手の自尊心を傷つけない様声掛け、配慮している。	以前は支援経過（時間毎）に記録されていた排泄チェックは、『排泄表』として単独シートに生まれ変わり、リズムが掴みやすくなり、支援に大いに役立っています。ちょっとした下痢でも、「いつから、どんな状態」かが一目で判ることもメリットです。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から便秘予防に気を配り飲食物の工夫をしている。適度な運動を取り入れ活動性の向上を図っている。必要によっては医師からの指示をもらい薬での対応をしている。薬も調整をして適切な排泄ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせ日のあかない様調整をして温度、入浴時間を適切に管理し楽しく入浴ができるよう支援している。利用者の要望に応え入浴剤や足湯の活用等様々実施している。	週2～3日を入浴の目安として、拒否の人には声かけを工夫し、清潔を確保しています。今年度はお茶や紅茶の茶殻を干して浴槽に入れることをスタートさせ、「匂いいねぇ」「温泉みたい。もう行けないとおもったけど、行った気分になれた」と好評を得ています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に応じて休息や夜間睡眠が良いものとなる様、各利用者に合わせて支援している。また中には自身で伝えられない利用者もおり、日々の様子から職員間で情報共有し個人に合わせた休息時間をとるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の処方薬の目的を理解して服薬後の症状の変化に注意している。場合によっては医師や薬剤師に相談をして調整変更中止を行ってる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で一人ひとりに合わせたレクレーションなどの楽しみや居心地の良い場の提供を心がけて支援している。家でしていた事の延長をなるべく施設でも出来る取り組みを実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添った外出はある程度出来ており、家族の協力を得て出かけられるよう支援している。本人や家族の希望に添い一時帰宅も援助し介助の仕方や情報の提供、介助支援をしている。	毎日のレクリエーションの時間帯を散歩に振り分け、嫌がる人には外気浴で代替して、戸外の風に触れる日を設けています。100円均一や洋服の買い物などで職員と出たり、家族が美容院や外食に誘ってくださっています。初詣や藤や桜の花見も年間行事に位置付けています。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金(小銭)の所持をされている入居者もおり、希望や能力に応じてお金の使用ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には自由な電話の使用を支援し、手紙のやり取りも自由に行っている。文通をしている利用者や遠方の家族とも電話をしたりかかってきたりと繋がりを継続するように援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には不快なモノ、混乱を招くようなモノを置かないようにしている。季節を感じられるよう時節に合った飾り物をして楽しんでいる。	ソファーカバーをかえたり、時節のお雛様を飾ったり、エアコンの風よけカバーを取り付け、カーテンは日よけのレースも備え、食事ではテレビを消して、唱歌など懐かしい曲を流す等、環境を整えています。またコロナ対策としてアルコール消毒を2回から4回　に増やしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれたり、気の合った仲間が過ごせるような居場所の工夫をしている。安心感や自分の居場所を見つけてもらうよう見守りケアをしている。初めは職員が介入しコミュニケーションをとり関係作りをしその人同士の繋がりをつくる支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談をして本人の使い慣れたものや好みのものを置き、落ち着いて過ごしやすい空間作りに努めている。安心できる場所、自分の居場所という認識を持っていただくように支援している。	普段はリビングに集まり居室は寝室となっていますが、快適に過ごせるよう配慮しています。女性職員が体格の大きな男性利用者を支えるのが難儀で、その様子を見かねた管理者が縦手摺り（つっぱり棒）を本人の居室につけたことで、褥瘡が消えた例もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力に合わせ安全かつ自由で快適な生活ができるよう心掛けている。過介助とならない様その人の出来る事としている事をケア会議で話をし自立に向け援助している。		

（別紙4）　　令和　元　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2295300129		
法人名	社会医療法人　駿甲会		
事業所名	グループホーム実夢青木		
所在地	静岡県藤枝市青木2丁目15－5		
自己評価作成日	令和2年3月25日	評価結果市町村受理日	令和2年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2295300129-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社第三者評価機構　静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1　柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和2年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

基本理念にある「その人がその人らしく」、認知症の人ではなくその人の自身を捉えた支援を大切にしています。
同法人内の医療機関と密に連携し健康の管理や定期、緊急受診に対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「クリスマス会があるから、是非いらしてください」との誘いから、子どもたちがサンタクロースの衣装を着てプレゼンターの役割を担ってくださった嬉しい日もあり、ご近所づきあいには温かな気持ちのつながりがあります。また独居で暮らしてきた頃、何かと気にかけて遠方の家族の代わりとなってくださっていたご近所さんは、本人の入所以来毎日来所して、他の利用者や職員とも親しい間柄となり、第二の家族として日々の団欒の中にいます。地域の皆さんに愛される事業所ですが、ケアサービスの研鑽も余念がなく、今年度は「縦手摺り（つっぱり棒）を居室に導入して褥瘡が消える」「温泉気分と喜ばれる、お茶風呂を始める」等の例があります。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者及び職員は全員で作った自設の理念を基に実践につなげる努力を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し物に積極的に参加し交流に勤めている。祭事では必ず町内の屋台が施設の前でお囃子や踊りを披露してくれる。花火では施設敷地内にて一緒に見学、夏祭りにも参加した。災害避難場所を等施設駐車場としている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を生かし地域の飲食店を利用、地域行事への参加を通し地域貢献に勤めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設でのサービスの取り組み状況の話し合いを行い、その時の意見、要望を取り入れサービス向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には運営推進会議に必ず出席して頂き事業所の取り組み等の状況提供を行っている。市相談員にも来訪して頂き取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が禁止の対象となる行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアの取り組みを行っている。定期委員会、研修をし知識の習得や対応を話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止関連法について冊子などで学び虐待の無いよう注意を払い防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活支援事業の必要性がある場合活用に心がけており、成年後見人制度を活用している利用者を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約また改定等の際は利用者、ご家族等に説明を行い理解、納得を頂いている。説明を受けたことの署名をもらっている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見、要望を管理者、職員は理解し運営に反映させ、毎月「実夢タイムズ」という事業所便りを発行している。		
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は懇親会などを開き職員の意見、提案を聞き反映させている。管理者は職員と話しやすい雰囲気を作り意見や提案を出しやすい環境作りをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各状況を把握し、向上心を持って働けるよう環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりの力量を把握し、研修の確保やトレーニングを行っている。職員個人で年間目標を作り自己研鑽に努めている。研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の他施設と交流を図り、毎月の研修、勉強会に参加しサービスの質向上の取り組みを行っている。研修に参加し他事業所との意見交換をしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人に寄添って困っていること、不安、要望に向かい合い、本人の安心できる関係づくりに努めている。認知症の人ではなく、その人の一部に認知症があるという事を意識しその人個人を捉える様にし関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、不安、要望に添った話し合いを行い、ご家族が安心、納得できる様な関係作りに努めている。随時日々の様子を伝えご家族の安心を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の時点で子細なアセスメントを行い、適切な支援、サービス利用の提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と暮らしを共にする者同士の関係を築くよう努力をし、おおむねその関係になっている。グループホームという事で一緒に生活している同士という考えのもと実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族を支えながら協力を仰ぎ、共に利用者を支えることを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人、場所が途切れないでいる利用者もいるが上手く関係の継続が出来ていない人もおり様々である。地域の催しに出向きそこで馴染みの人と触れ合う事も考え実施している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し、孤立せずにより良い関わり合いが出来るよう注意し努めている。一人一人の性格を意識し職員が介入する事で関係作りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても関係の継続に努め必要とされれば相談にのっている。実際に入院や他施設への移動後も経過を伺ったり、実際に会いに出向いたりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにセンター方式を一部使い、本人の思いや希望、意向の把握に努め、本人本位に検討をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族の協力を得てフェイスシート、アセスメントシートに適切な情報を多く入れ、職員の情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日常に一人一人の心身状態や日々の様子の変化に気を付け、把握に心がけている。その日に起こった事や些細な変化の情報共有に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画の作成に努めている。 ケアプラン作成時にはケア連絡表からの情報やケア会議で職員より意見を聞き取りモニタリングに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気付き等を支援経過表やケア連絡表に記入し、ケアプランの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに対応した柔軟なサービス提供に心がけ、多様化に向けて取り組めるように努力している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の利用を上手に活用できるように心掛けている。		
30	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にした主治医との連携をとり、医療連携をとるなどより良い関係を築いて適切な医療を受けられている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は毎日入居者のバイタルを測定して日々の変化、体調などの気づきに対し、看護師と相談し適切な看護や受診が行えている。24時間オンコールできる体制もある。病院に直接電話し主治医や病院看護師と情報共有、判断をする体制もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関は同法人内にもあり医療連携をしている。入院時を含め病院との連絡、情報の提供は密にとれており、良い関係を築けている。		
33	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対して、ご家族、ご本人と話をし施設で出来る事の説明を入所時に行っている。法人本部の病院関係者との関係づくりは出来ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時に備えマニュアルを整備し迅速な対応ができるよう心掛けている。法人内で研修も開かれており参加し実践力を見に付ける取り組みをしている。		
35	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	独自の非常用避難スロープを製作したうえで年2回の定期的な訓練を実施し、地域との協力体制を築いている。地区の避難場所を等施設の駐車場に変更し情報の共有や訓練、災害時の対応に努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応をしている。認知症の理解も必要である、その人らしさ、個人を捉えた対応をする様に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の希望や思いを聞き取り、本人の意思に沿った支援を行っている。自分の思いを認知症の為声として表出する事が困難な人もいる。その人の姿、行動から察し気付くという事を職員は大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	効率ばかりにとらわれずその人のニーズを常に考え職員都合になってしまわないように日々その人らしい暮らしの支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人希望の服を選んでもらいその人らしいおしゃれの支援を行っている。洗顔など整容にも気遣い、身だしなみにも気を配るよう支援をしている。買い物に出かけ服や雑貨を選んで買ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの食事の好みを把握し、食事の楽しみの提供、配膳、食器洗い等、職員と共に行っていいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分摂取量に気を配り、本人の摂取しやすい食事形態の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に各利用者に合わせた口腔ケアを行い口腔内の清潔を図っている。臥床時には入歯を洗浄剤に浸け清潔を保っている。市との研修座学実践口腔ケア技術向上事業にも参加した経験を活かし活用している。。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツ使用の無いように支援し、個人に合った排泄方法やトイレ誘導時間を設定している。 また、相手の自尊心を傷つけない様声掛け、配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から便秘予防に気を配り飲食物の工夫をしている。適度な運動を取り入れ活動性の向上を図っている。必要によっては医師からの指示をもらい薬での対応をしている。薬も調整をして適切な排泄ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせ日のあかない様調整をして温度、入浴時間を適切に管理し楽しく入浴ができるよう支援している。利用者の要望に応え入浴剤や足湯の活用等様々実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に応じて休息や夜間睡眠が良いものとなる様、各利用者に合わせて支援している。また中には自身で伝えられない利用者もおり、日々の様子から職員間で情報共有し個人に合わせた休息時間をとるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の処方薬の目的を理解して服薬後の症状の変化に注意している。場合によっては医師や薬剤師に相談をして調整変更中止を行ってる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で一人ひとりに合わせたレクレーションなどの楽しみや居心地の良い場の提供を心がけて支援している。家でしていた事の延長をなるべく施設でも出来る取り組みを実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添った外出はある程度出来ており、家族の協力を得て出かけられるよう支援している。本人や家族の希望に添い一時帰宅も援助し介助の仕方や情報の提供、介助支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金(小銭)の所持をされている入居者もおり、希望や能力に応じてお金の使用ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には自由な電話の使用を支援し、手紙のやり取りも自由に行っている。文通をしている利用者や遠方の家族とも電話をしたりかかってきたりと繋がりを継続するように援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には不快なモノ、混乱を招くようなモノを置かないようにしている。季節を感じられるよう時節に合った飾り物をして楽しんでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれたり、気の合った仲間が過ごせるような居場所の工夫をしている。安心感や自分の居場所を見つけてもらうよう見守りケアをしている。初めは職員が介入しコミュニケーションをとり関係作りをしその人同士の繋がりをつくる支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談をして本人の使い慣れたものや好みのものを置き、落ち着いて過ごしやすい空間作りに努めている。安心できる場所、自分の居場所という認識を持っていただくように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力に合わせ安全かつ自由で快適な生活ができるよう心掛けている。過介助とならない様その人の出来る事としている事をケア会議で話をし自立に向け援助している。		